



うきは「小麦」活性化プロジェクト 代表
うきは小麦新商品開発協議会 会長

まつ お じゅんいち
松尾 潤一 氏

Profile: 福岡県大牟田市出身、福岡市在住。1969年1月14日生まれの56歳。1992年、福岡銀行入行。企画部門経験(総合企画部、営業企画部等)10年、営業店経験(吉井支店、雑餉隈支店、東京支店等)。現在は関連会社である福銀事務サービスの代表取締役を務める。

小麦収穫量全国2位 麺王国九州

ラーメンやうどん、ちゃんぽんなど、九州は「麺王国」として知られていますが、実は福岡県の小麦収穫量が全国第2位であることをご存じでしょうか。福岡県の中でも、うきは市は代表的小麦の産地です。筑後川の流域に位置するこのエリアは、川の恵みと、耳納山地から流れる栄養豊富な伏流水によって、農地に適した環境が整っています。小麦の栽培は江戸時代中期頃から盛んに行なわれており、その歴史も深いものです。

さらに、うきは市は、冬場が比較的温暖であり、冬から春にかけて小麦などの麦類を手掛ける全国でも珍しい二毛作が行える土地でもあります。

このように全国的に見ても希少な小麦の産地でありながら、その知名度はまだ十分ではありません。そもそも、日本全体の小麦の食料自給率はわずか15%で、その多くが海外からの輸入に頼っているのが現状です。

そこで、鳥越製粉株式会社の発祥の地でもあるうきは市から国産小麦のおいしさを発信し、全国の人々にその魅力を知ってもらいたい。そんな思いを持った人たちが集まって結成されたのが、うきは「小麦」活性化プロジェクトです。

福岡銀行 吉井支店長時代から続く、 うきは市とご縁

よくきつかけを聞かれますが、ここで私のことを少しお話しさせていただきます。現在、私は平日は福岡銀行の関連会社である福銀事務サービスに勤務し、また休日はボランティアとしてうきは市において地域活性化活動を行っています。

うきは市とご縁は、福岡銀行 吉井支店長時代から始まりました。在任期間は2013年10月から2015年3月のわずか1年半でしたが、その後も



プロジェクトメンバーの一人で株式会社みずほファーム 取締役 石井康太氏

地域の方々との交流を続けていました。この吉井支店長としての経験が、私にとって大切な人々との絆を育む基盤となったのです。

プロジェクトの始まりは、2021年6月頃、親交のあった地元の建設会社、株式会社稲富組いなとみぐみの稲富会長から「地域を活性化したいけれど、何かできないだろうか」と相談を受けたことに始まります。それから初期メンバーと共にうきは市の歴史や伝統を紐解いたり、実際にうきは市を見て回ったりする中で、「うきはの小麦文化」に着目しました。

2021年9月、製麺業の株式会社栗木商店の栗木社長ほか有志で『うきは「小麦」活性化プロ